



SSH通信 No.24

令和5年度 第9号 1月15日発行
千葉県立佐倉高等学校
Chiba Prefectural Sakura High School

SSH 特別講義「気付く・探る・考える」

10月10日(火)、1年生全員を対象に SSH 特別講義「気付く・探る・考える」を実施しました。今年度は、千葉工業大学惑星探査研究センター副所長の和田浩二先生をお招きし、火星衛星探査計画「MMX」に関する講義をいただきました(写真①～④)。MMX(Martian Moons eXploration)は、火星衛星フォボスとダイモスを探査し、その表面から岩石を地球に持ち帰るサンプルリターンミッションで、2024年9月打ち上げ予定です。

火星衛星フォボスは、はやぶさ2が往復したリュウグウなどの小惑星と表面が黒いことが共通していることから、火星に接近した小惑星が重力に捕まって衛星になったと考えられています(捕獲説)。一方、フォボスとダイモスが火星の赤道面を円軌道で、火星の自転と同じ向きに公転していることから、火星に大きな天体が衝突して破片が宇宙空間にばらまかれ、この破片が集まって衛星になったとも考えられます(天体衝突説)。どちらの説が正しいのか、持ち帰った火星衛星の岩石を調べることで明らかにし、地球型惑星の形成過程に迫ろうとしています。

和田先生からは、はやぶさ2が行った弾丸をリュウグウに衝突させて人工クレーターをつくる話など、宇宙探査に関する最先端のお話をお聞きました。講義後は活発な質疑応答が行われ、充実した時間となりました。

第26回数理科学コンクール表彰式

数理科学コンクールとは、千葉大学先進科学センター主催で水の惑星にどんな波が起こるか？丈夫な家に柱は何本必要か？など、現象を物理や数学を使って解明するコンクールです。実験や模型作りで試すなど、自由な発想で楽しみながら挑戦していきます。

課題の部は7月17日(月・祝)、人工知能の部は8月27日(日)に開催され、エントリーしたのは1～3年生の普通科・理数科合わせて40名です。受賞結果は11月3日(木・祝)に発表され、本校からは**13名が受賞**しました。内訳として、課題の部において4問中2問以上優秀な解答をして評価され、2年生3名が金樺賞を受賞しました。同様に、1問優秀な解答をして評価され、3年生2名・1年生5名の計7名銀樺賞を受賞しました。また、ユニークな解答をして評価され、3年生1名・1年生2名の計3名が学長賞を受賞しました。写真⑤は表彰式に参加した12名です。

SSH 活動掲示板は
こちら→



これまでの SSH 通信は
こちら→



↑ 写真① ↓ 写真②



↑ 写真③ ↓ 写真④



↑ 写真⑤